

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470204169		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・大町		
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区大町三丁目1-18 (電話) 082-831-8885		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年5月19日	評価確定日	平成21年6月4日

【情報提供票より】( 21 年 4 月1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 10 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	11.9 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	6 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	370 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 5 月 19 日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84.3 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋山クリニック・松本歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひなたぼっこ・大町」では、事業所の理念に沿って全職員が話し合っ  
てホーム独自の目標を定め、ケアの意見の統一を図りながら、してあげる介護から、生きるこ  
への支援、さり気ないお膳立て、助け舟などを確認し合いながら支援に努められている。ま  
た、地域に密着したグループホームを目指すために、例えば管理者自らが町内会の役員な  
ど引き受けたり、運営推進会議を通じて参加メンバーや町内会長等から多くの率直な意見  
をひきだされたり、地域の老人会や子供会との交流も積極的に行われており、地域との関係  
が良好なことが伺える。なじみの環境作りのなかで、入居者の方々は個別のペースが守ら  
れ、職員とともに明るく生き生きと、大きな声で全員でナツメロなどを歌うなどしながら、ホ  
ームでの生活を楽しまれている。職員のチームワークも良く、入居者の方々に学ばせていた  
だき、ともに楽しく暮らし続ける同士であるという全職員の思いが、プラス思考で前向きである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では主な改善点がなかったが、その後の取り組みとしては毎月1回の全体ミー ティングのあり方に改善や工夫を加え、職員一人ひとりの目標を設定し、また各ユニットとの合同 のミーティングを行うなどしながら、今以上に各ユニット間でのケアについて意見の統一を図 ることに努められており、今後とも継続していかれることが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、事業所全体で目的や活用方法をよく理解した上で取り組まれている。自 己評価や外部評価の結果については、運営推進会議の場で議題に取り上げて、評価 で明らかになった課題について報告している。また、その結果を踏まえてミーティングで 話し合い、改善努力を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。また、出席者は地域包括支 援センターの職員や、町内会関係者及び家族代表の方が出席されており、参加者から の色々な提案やアドバイスを受け議事録も保管されている。今後の進め方としては、議 事録の内容の中で特に提案や今後の改善への取り組などは、もう少し掘り下げた議事 録とされたり、また次回の会議の議題を早めに決めて、出席者から多くの率直な意見が ひきだされることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には事業所独自のアンケートを実施し、多くの率直な意見をひきだしながら、事業 所の運営改善に活かされている。毎月、ひなたぼっこホーム便りを家族に送付するなど しながら、家族の方への定期的な報告も行っている。今後、家族会の体制や運営方法 等を見直されて、今以上に家族の声と力を活かされることが期待される。
重点項目	地域の一員として自治会に加入し、管理者が役員を引き受けるなど積極的に地域にと けこむ努力がなされている。また、運営推進会議などを通じて、町内会長の理解と支援 もいただき、ホームへの協力体制が得られている。年2回実施している消防訓練や避難 訓練なども、地域の人達の協力と参加を得ながら行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念をよく確認した上で、職員全員が話し合っ てユニット毎の理念の策定が行われている。また、ユニット毎の理念を更に具体的な目標に置き換えて、職員全員で確認し合いながら、日々の実践につなげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングの際には、職員全員で理念に触れ、確認し合うようにしている。理念を日々の業務に活かすことによって、また家族や地域への浸透を図りながら、事業所の実践を伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が自ら町内会の役員などを積極的に引き受けたり、町内会長の協力や支援を得たり、地域の老人会や子供会との交流を積極的に図っている。また、消防・避難訓練などにも地域の人たちが参加されており、地域の一員としての良好な関係作りが伺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームの入口には、自己評価と外部評価の結果を掲示し、外部の方が自由に閲覧できる体制がつけられている。また、運営推進会議の場ではその結果を踏まえて参加者からの意見を聞くなどされており、積極的な業務改善への姿勢が伺えた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われており、地域包括支援センターの職員や町内会長及び家族代表などが出席されており、参加者からは多くの率直な意見や提案などをいただきながら、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会などには積極的に参加したり、運営推進会議を通じて地域包括支援センターの職員に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「ひなたぼっこ通信」で、入居者の日々の様子などを職員が親しみのある便りに工夫しながら、家族等に送付されている。また、必要に応じては電話などで近況の報告もきめ細かく知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から不満・苦情などは、各事業所及び母体組織の担当部署に伝わる体制が作られており、また家族等の来訪時には現状報告を詳細に行うとともに、介護に対する意見などを気軽に話し合える機会を設けながら、提案や要望など聴きだして、それらを運営改善に反映されている。		現在、家族会はあるが活動がやや少ない感じです。再度、家族会のあり方や、運営について検討されて今以上に家族の声と力を活かされることが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の方の異動や離職も少なく、職員と利用者の方々とのなじみの安定した温かい関係が確立できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修には職員のレベルに合わせて、できるだけ多くの職員を参加させている。研修参加後には、担当者が研修報告書の提出を行い、また毎月のミーティングの際にも研修報告を行いながら、事業所全体の質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会や、広島市内の他グループホームの交流会等に参加して、情報の収集を行い、この情報をもとに事業所のサービスの改善向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族には、事前にホームの見学をお願いしたり、また入居者の生活歴を十分に把握して、本人が安心して早くサービスの場になじめるように配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常日頃から、全職員は入居者の方に対し、学ばせていただき、ともに楽しくを基本として支援に努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員一人ひとりが、入居者の方々の日々の関りの中で、言葉や表情等から思いや意向の把握に努めながら、本人本位の支援に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の要望及び関係者や職員等の情報にもとづいた、介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な介護計画の策定や見直しは行っているが、本人に変化が生じた場合には、家族の方や医師と話し合いながら現状に即した介護計画が作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	基本的には、入居者や家族の要望に応じた介護支援 がなされており、またその時々に必要な支援には柔軟 に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、家族の動 向が困難な時には職員が同行するなどして、かかりつ け医での適切な受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	まだ、当事業所での看取り介護は行われていないが、 事業所が対応しうる最大のケアについての体制などは できている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	常日頃から、全職員は入居者への尊厳を守るために、 言葉づかいや対応に注意し、徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の業務スケジュールに流されないように配慮し ており、出来るだけ入居者のペースやその日の体調に 合わせながら、本人の気持を尊重した支援が行われて いる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者の希望に合わせた食事の献立作りを行ったり、また食事の準備なども入居者の方々の得意技を活かしたりしている。また、全員で和やかに料理を作り同じ物を職員と同席して楽しくいただき、後片付けやテーブル拭きも入居者が卒先して行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に定めていないが、入居者の生活習慣やその日の希望や体調に合わせてながら入浴支援が行われている。また、入浴に際しては健康のチェックをおこなって、安全な入浴にも取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方々との日々のふれあいの中で要望を見出し、ストレス発散や気晴らしのために散歩や外食などに出かけながら、張り合いや笑いのある生活支援の実現に取り組まれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や入居者の健康状態等をよく把握して、一人ひとりが短時間でも外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることへの弊害をよく理解し、見守りや声かけなどの連携プレーで日中は鍵をかけない支援を実践されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方々の参加や協力を得ながら、防災訓練を定期的実施されている。また、町内での訓練にも積極的に職員を派遣するなどされており、防災意識は高い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の入居者の食事や水分の摂取量は把握されており、一人ひとりの状況に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には生け花を飾ったり、季節の飾りつけや入居者の作品を展示したりしながら、家庭的な雰囲気とくつろげる居場所づくりに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品や装飾品などが持ち込まれており、入居者一人ひとりが居心地よく過ごせるように配慮されている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・大町

評価年月日 平成21年4月13日

評価年月日 平成21年4月13日

記入者 職 ホーム長 氏名 三村 千恵(大町)

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>『認知症サポーター100万人キャラバン』アドバイザーのいる施設として、認知症の正しい知識や認知症の人とのつきあいなどを広め、認知症の人や高齢者が地域で安心して暮らせるよう、ホームとしても一役を担いたい。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の各項目を実践し深めていくことで入居者の方一人ひとりが安心して楽しく暮らすことができると確信し、ミーティングで各項目について話し合ったりし、スタッフ全員で取り組んでいる。</p>		<p>今年度はスタッフで分担して評価内容をまとめる予定だったが、来年度に持越しとなった。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見により、町内会・子ども会との交流が企画・定例化され、地域の人々の理解が深まった。地域社会福祉協議会との連携もできた。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町担当者に対しても更にホームの内容などについて情報交換を行いながら、サービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域密着型サービス事業者管理者研修などを通して学ぶ機会が持てたことにより、これまでの消極的な情報提供から脱し、必要な情報提供が前進しつつある。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待アンケート（無記名）を実施したり、研修の機会を持つなど前向きに取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には入居者の方やご家族の不安や疑問についてしっかり話を伺い、重要事項やホームでできること・できないことなどを十分説明するようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見・苦情や提案をいただいた時は、それをスタッフ優位で結論付けずケアに活かすよう心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の方のホームでの生活を知っていただくように、毎月発行の通信をご家族に見やすいよう工夫し、また更に形を変えるよう試みたりして進化させている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>無記名でのアンケートを毎年実施し、また直接スタッフに言い難いことも苦情窓口などにご意見を寄せていただけるよう務め、ホーム運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回の個別面談を設けたり、ミーティングで意見を聴いたりしているが、スタッフから管理者へは言い難いこともある。管理者へ意見を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の方の自由な暮らしを支えるよう、起床時や就寝時、犬の散歩時間など、状態やペースに合わせた柔軟なスタッフ体制を組んでいる。入居者の方の病状にも合わせて、スタッフの理解を得ながら勤務時間の変更など柔軟に対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットのスタッフを固定化し、顔なじみのスタッフによるケアを心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム外で開催される研修にもスタッフ全員が参加できた。今後も積極的に参加し、研修報告はミーティングで発表する機会を持ち、スタッフの意欲向上・実力向上に繋げたい。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム事業者交流会、また全国組織のグループホーム交流会に参加し、サービス向上に活かしている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間内で、スタッフが入居者の方と離れ、一息入れる休憩時間を取るよう配慮している。また、職場を離れて、スタッフ同士の交流の機会をもっている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	笑顔で働ける職場作り、ここで働いて良かったと思える職場作りに向け、更なる努力を重ねることによって入居者の方を支える暮らしが深まるよう努めている。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼関係を築いていくことは、とても大切なことだとスタッフ全員で話し合い、相談時よりご本人の不安などを受け止め、全力を尽くしている。このことを通して新入居の方もホームになじんでいただけていると実感している。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人同様、相談から利用に至るまでのご家族の気持ちを受け止めることに重きを置いている。このことを通して、ご家族もご本人を送り出す気持ちの整理ができて、ご本人への今後の支援が深まる。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談をホーム入居に直結するのではなく、ご本人とご家族の困っていることを受け止めて繋げていくよう取り組んでいる。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは、ご家族にホーム見学などでホームを知っていただくよう図っている。ご本人にも見学や体験を通じて、安心して利用していただけるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>開所以来5年が過ぎ、これまでは入居者の方の立場にたつてと考えることに必死であった。やっと最近スタッフ間で入居者の方と共に過ごすという実感が持てるようになってきていると思える。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人同様、ご本人を共に支えるご家族とも人間同士としての関係が基盤となるよう努めている。ご家族の思いを受け止めスタッフ間での共有に努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>開所以来数年経つと入居者の方とスタッフが家族のように気持ち親しくなるが、入居者の方ご本人とご家族のより良い関係が続くよう両者の絆を大切にしようきめ細かな支援を心がけている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ホームに入居されてもこれまでの近所の方やお友達と交流するよう支援している。しかしながら、年数が経つほどにいろいろな機会が減ってしまうことも実感している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>長年暮らしてきた我が家を離れての生活は、思い通りにならないことや不安が多い中で、入居者の方同士、仲のよしあしを配慮し、孤立してしまわないよう支援している。</p>		<p>場面によって入居者の方同士、なだめ役になったり、相談者になったりして支えあう力を引き出すよう支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他の施設へ転居された方のところへ、入居者の方と一緒に訪問する機会を作っている。現在でも複数の退居された方々からひなたぼっこの写真を見て懐かしいと電話をいただいたり、ご家族からも相談の電話をいただくことがある。</p>	
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で把握に努めている。言葉や表情などから真意を推しはかり、それとなく確認している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>若い頃のことなどは子どもさんも知らないことが多く、把握が難しい入居者の方からはご本人自身の断片的なお話を寄せ集めて、スタッフも創意工夫しながら支援している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の方一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や細かな動作から感じ取り、ミーティングでスタッフ全員で話し合い、ご本人の現状と全体像を把握するよう努めている。</p>	
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者ご本人の希望、ご家族の願い、スタッフの日々の気付きや意見を反映し、話し合いながら計画を作っている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティング時に個別に見直しをして新たな計画に反映させている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録とともに毎月ミーティングにて入居者一人ひとりの課題を準備・検討している。個別記録や情報共有については複数記録の無駄を省き、工夫・進化させている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>それぞれの入居者の方やご家族の状況は様々であるので、その時々に必要な支援を柔軟に対応し、ご本人やご家族の要望にこたえるよう努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>町内会や民生委員の協力で行事に参加したり、公民館のいきいきサロンを活用したり、区民文化センターでの催しや図書館利用など普段の生活において協力を得ている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じてホーム以外のサービスとつなげるよう地域のケアマネジャーや社会福祉協議会と連携をはかっている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括センターの職員が参加されるようになり関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には家族同行の受診となっているが、困難な場合には職員が代行するようしており、契約時にその旨を説明し同意を得ている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近隣に専門病院があり、必要に応じて指示や助言をもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホームの非常勤看護師以外にも、主治医クリニックの看護師の方々や地域の訪問看護の看護師さん方にも相談しながら、入居者の方の健康管理や状態変化に応じた支援に取り組んでいる。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員も頻繁に見舞いながら、なるべくご本人の混乱が少なく早期に退院できるよう支援している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご本人とご家族の状況・状態・気持ちなどは変化しやすいので、主治医も含め相互に話し合いを積み重ねながら支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期に向けての支援については、必要に応じ、ご本人・ご家族や主治医と話し合いながら進めていく。それに向けてスタッフもチームとして学習を進める。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の居所へ移り住む際も、入居者の方にとって混乱が軽減するよう、きめ細かな情報提供や支援を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを重んじた言葉かけ・対応について深めるよう心がけている。ミーティングなどで考え方を深めるよう話し合っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の方と過ごす時間を通して、入居者の方の希望・感心・嗜好を見極め、日常の生活の中でご本人が選びやすい場面作りを支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、スケジュールに流れないよう配慮している。できるだけその時のご本人の気持ちを尊重して支援している。スタッフのペース優先にならないことが継続した取り組み課題である。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>それぞれの希望に応じた理容・美容を選んでいただき、ホームでの毛染めなども提供している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>朝の買い出しに始まり、お米とぎや調理など一人ひとりの入居者の方の力を活かして援助を行うよう、声かけなどを工夫している。また自主的に準備や片づけをされる場面を大切にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人の好みのものを気軽に希望していただけるように努めている。また、入居者の方の様子や気持ちを察してスタッフから提案するよう心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	高齢・認知症の方々にとって排泄のことは大切だと実感している。本当はご自分でされることが本来だと捉え、できるだけご自分でできるよう支援し、介助する時はプライドを傷つけないように工夫し、周囲に気付かれないよう配慮している。居室でのポータブルトイレの使用についても配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい方、入浴は嫌いな方、それぞれの希望を叶え、入浴して気持ちよかったと喜んでいただけるよう支援している。特にきっかけが難しい方には、ご本人のペースを大切に、尚且つ個別の取り組みを工夫することで実現している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にできるだけ希望の外出や意欲向上をはかることで夜間に熟睡できるような生活リズムを作るよう支援している。夕食前後も安心して過ごしていただけるような援助を工夫し、状況に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いがあるということがホームでの生活にとっても大切なことだとスタッフが認識し、また笑いのある生活を支援するように心がけている。ストレスがたまった時には息抜きや気晴らしができるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかいを持ってご自分で買物を楽しまれたり、必要な小物を購入できるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	友人宅や馴染の喫茶店など個別の希望を叶えると同時に、一緒に出かけて楽しかったという喜びも支援するよう、できるだけきめ細かい支援を心がけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホテルで昼食をとったり、映画館に出かけたり、転居された方を訪問したり、展覧会に出かけたりする機会を作り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の居室などでゆっくり電話ができるよう支援している。		手紙や年賀状等を書く機会を作って、ペンや筆を持つ習慣を継続支援したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるよう、まずスタッフが笑顔で迎えるよう心がけている。ご家族・親類のみならず元町内の方やお弟子さん、元会社の同僚など馴染みの方々も訪問して下さり入居者の方はとても喜んでおられる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで身体的拘束をしないケアについて学習を深めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はスタッフが玄関の鍵を開けている。自由に外出される入居者様はそっと見守り、遠くに出かける様子なら安全に配慮するため付き添うよう支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の方の動きやサインを察知できるよう、スタッフはさりげなく常時見守り支援を行っている。夜間は特に2時間毎に様子を確認するとともに、対応がすぐできるように夜勤スタッフの居場所を工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ・裁縫道具も自由に使えるように支援している。入居者の方の状況変化に応じて配慮できるよう、スタッフの話し合い・申し送りを心がけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、スタッフの認識共有を図っている。小さな事故もご家族への報告と今後の予防対策について検討している。特に洗濯干し場や犬の世話などでの事故が起こらないよう、さりげない見守りなどの支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、ホームにおいて2年ごとに全スタッフが救急救命講習を受けている。また毎月のスタッフ会議などで繰り返して身につくように務めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは入居者の方を交えて年2回消防避難訓練を行っており、前は町内会からも10名程参加された。また、防災についての話し合いを持ったり、地域の広域避難訓練に参加したりしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとり入居者の方のご家族と介護計画作成などを通じて、また状況変化があれば随時話し合う機会を持っている。		
また				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特に誤嚥性肺炎予防、皮膚疾患予防、心筋梗塞再発予防などに取り組んでいる。変化などがあればスタッフ間で情報を共有し、看護師や主治医に繋げ早期発見・早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを活用し、確認を徹底している。看護師の協力を得て理解を深めたりしている。薬の処方などの変更には申し送りを徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消や排便リズムの確立が日々の暮らしにとっても大きな影響がある。一人ひとりの入居者の方にとって快適環境であるよう日々観察や工夫を行っている。		野菜などで繊維質をしっかりと摂取するとともに散歩、買物、食事など身体を動かす機械を支援している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の方一人ひとりのペースに配慮し時間をかけて毎食後支援したり、歯科衛生士の協力により口腔ケアに取り組んでいる。		歯磨きセットも一人ひとりの状態に合わせて用意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>現在は糖尿病によるカロリー制限が課題で体重が増えないような支援が必要とされている。栄養バランスに配慮し、こまめな水分摂取も心がけている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>季節・地域の感染症発生状況の情報収集に努め、早期発見・早期対応に取り組んでいる。ホームで起こった感染症、今後起こりうる感染症について主治医とも連携を取りながらスタッフ間で学習に取り組んでいる。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>新鮮な地元の食材を提供できるよう、ほぼ毎日JAなどに買物に出かけている。冷蔵庫・冷凍庫の点検・整理や調理器具などの衛生管理に取り組んでいる。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>入り口に手作りの看板を掲示し、ベンチを置いたりして開放的な雰囲気にも努めている。</p>		<p>施設的ではなく家庭的な作りになるよう勤めているが、初めて来所する人にはわかりにくいとの指摘もあるので、改善を検討したい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ダイルームと台所が繋がっていて入居者の方が家事に参加しやすい反面、台所の音でテレビや会話が聞こえにくくならないよう配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やウッドデッキにそれぞれくつろぎやすい椅子を配置して、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースになっている。一人になれるスペースにもなっている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品・装飾品などが持ち込まれており、入居者の方一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節やその日・その時の温度・湿度・換気に注意し、一人ひとりの状態に配慮して行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の調理用ワゴンが入居者の方りようされるには高かったので、良い高さに作り変えた。犬の世話をされる時に膝を痛めないよう椅子を作った。たびたび外の空気に触れていただくよう、庭の半分をウッドデッキにした。食卓椅子を座りやすいものに変えた。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかりにくいこと、混乱を招きやすいことなどご本人の不安材料を取り除き、ご自分の力を発揮しながら暮らせるよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて涼んだり、中庭のウッドデッキでおやつや花・犬の世話をする空間を作っている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・大町

評価年月日 平成21年4月23日

評価年月日 平成 21 年 4 月 23 日

記入者 職 ホーム長 氏名 野田 愛 (大町)

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		地域密着型サービスの意義を再確認し、地域の中でのよりよい生活ができるよう、地域との関係も深めていきたい
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		日々、またはミーティング時などの話し合いでケアに生かせるよう努力している
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		地域の方も少しずつ理解していただいているが、さらに努力していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や町内会長を通じ、ホームでできることや近隣からの要望を聞き、取り組んでいけるよう模索中		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価に取り組んでいる		さらにケアに活かしていけるよう取り組みたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みや内容を報告し、それに対する意見をもらっている。また地域参加への助言・相談を互いにおこない、ケア・サービスの向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話相談などしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会を持っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合い、研修へも参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、リスク、医療体制などの説明を十分におこなっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その場で解決できないものは、ミーティング等で取り組んでいる。またスタッフ本位になっていないか等の再確認をしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の通信にて報告。また個別のアルバムを作成し、通信だけでは伝えきれないものを補っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施。面会時に何でも言っていただける雰囲気作りをしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように努めている。ミーティング等で意見を聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時々々の状況に応じて柔軟な体制が取れるよう努めている。		管理者がシフトに入っており、スタッフの急病時や利用者の急変時等に無理が生じることもあるため、余裕を確保したい
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットのスタッフをなるべく固定し、なじみのスタッフによるケアを心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	ホーム外での研修に参加。参加後はミーティングでの報告、回覧をしている。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会に参加している。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間を設けているが、場所の確保ができず不十分。なるべく個別に話を聞く機会をとっている。	休憩場所、時間の確保が課題
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則が守られている。健康診断などで健康管理もされている。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から事前面談まで、ご本人の話をしっかり聞き、不安や希望を理解するよう努めている。体験入居も行っている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に、まずはご家族の話をじっくり聞いて受け止め、次の段階へつなげていけるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族の状況を確認・把握した上で、必要なサービスに繋げるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通常はホーム見学、事前面接、体験入居と段階を踏むが、緊急の場合はご家族の協力を得たり、スタッフ間での工夫、連携で安心感を持っていただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることをスタッフ間で共有し、野菜作り・食事作り等、得意なことを教えていただく場を設けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、ご本人の様子・スタッフの思いを伝え、またご家族の話を聞いている。またスタッフ間でも共有している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの思いを受け止め、面会時等はスタッフが間に入っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人との交流が続くよう支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係をミーティング、またはその時々においてスタッフ間で情報を把握し、日常生活の中ではスタッフが調整役となっている。また、個別での対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も転居先、入院先を訪問したり、ご家族から近況を伺ったりしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握できるよう努めている。また意思疎通の困難な方には、ご家族から情報を得ようとしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人、ご家族から情報を得ている。入居後も日常生活の中で把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のできることに注目し、その方の全体像を把握している。また、生活のリズムの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや希望を聞き、スタッフや主治医の意見も反映した上で作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化やご本人、ご家族の要望に応じて見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、出勤時には確認をしている。またミーティングで話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じて、通院・送迎など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会などの協力を得て、行事に参加している。区民文化センターでの催し物にも参加している。消防署の指導のもと、避難訓練を地域の方も交え行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内の行事に参加している。また訪問理美容を利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、周辺状況や支援に関する情報交換、協力関係が築けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院、往診はご本人、ご家族の希望・状況に応じて対応している。また、入居前からのかかりつけ医での受診もご家族と協力しながら行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に専門医院があり、必要に応じて受診し指示や助言をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護職員を配置しており、健康管理・状況に応じた支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、お見舞い時には看護師長やご家族と情報交換している。またホームでの生活復帰のため、医療機関へ要望をその都度伝えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人・ご家族の意向を入居時、入居後などその都度確認し、主治医・スタッフ間で連携をとっていけるよう努めている。主治医からご家族への説明もされている。ミーティングで方針の確認もしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでどこまで可能か、主治医へ相談し助言をもらっている。訪問看護も利用している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を細かく伝えられるよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>自尊心やプライバシーを損ねないように心掛けているが、時々不十分なきもある。写真掲載などはご本人・ご家族の同意を得ている。</p>	<p>ミーティングやスタッフとの個別面談などで、さらに意識向上していきたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合った支援ができるよう取り組んでる。入居者主体の支援を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望・状況に応じて支援しているが、スタッフ数に限りがあるため、難しいこともある。</p>	<p>さらに柔軟な対応をしていきたい</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に衣類の選択・化粧などご本人にしてもらっている。なじみの理美容室で希望のカット・毛染めなどをしてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフと一緒に畑の野菜を収穫、又は買物に行き、メニュー決め、調理している。また、可能な方・可能な時にそれぞれ一緒にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お好きな物を把握し、買物時に購入したり、おやつ時にお出ししている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は紙パンツの使用を止めている。その日の体調・水分摂取量を把握した誘導を心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく希望に添えるよう努めているが、すべては難しいのが現状。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促している。夜間の不眠時は添い寝などしている。日中も体調や、状況に応じて休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、畑仕事、調理、らっきょう漬け、花の手入れ、裁縫など一人一人お好きな事を活かしている。		ホーム内外での役割、楽しみをさらに増やしていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は、ご家族の協力を得て手元に持たせていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・体調に応じて、日常的に散歩・買物・畑・ドライブに出掛けられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日などにご家族の協力も得て支援している。美術館・喫茶店など個別に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使っていただけるようにしている。また必要時にはお手伝いしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を決めず、いつでも訪ねてもらえるようにしている。また気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で勉強し、拘束のないケアをしている。外部研修への参加。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室などは一切施錠していないが、玄関のみ施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時さりげない見守りをし、安全に配慮している。夜間は必要に応じ、巡回を増やしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自由に使っていただいているが、注意の必要な物品は決められた場所に保管している。はさみ・針などは使用前後に個数の確認をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を記入し、スタッフ間で共有の認識を持つようにしている。ご家族への報告も随時行っている。		考えられる事故を予測し、事故を未然に防ぐ努力をしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、2年に1回の救命救急講習を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難・消防訓練を行っている。町内会からも参加してもらっている。学区内防災訓練にも参加。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会・ケアプラン作成時など、その都度ご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな変化を見逃さないよう、記録・報告等で情報を把握し共有している。看護師への相談・必要時には受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方綴りを活用している。看護師・管理者より情報の共有を図っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の摂取を心掛けている。水分摂取量の記録をし摂取量の把握に努めている。嚥下困難な方へはゼリー状にして提供している。ホーム内外、なるべく歩いていただけよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケアの声掛けをし、必要な方へは介助・衛生士の訪問を利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に記録し、情報を共有している。また必要に応じて細かく記録している。一人一人の状況に応じて、刻んだり、とろみをつけ提供している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症について情報収集し、ミーティング等で学習し予防・対策に努めている。ご家族に同意をいただき、予防接種をしている。ペーパータオル・ソリューションウォーターも併せて使用している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具の熱湯消毒、まな板・布巾の漂白など行っている。冷蔵庫内の食材の確認や、早めに使い切るなど気をつけている。</p>		<p>魚介類などは、購入当日に使い切るようにし、買い溜めを極力しないようにしていきたい</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>看板を掲げ、花や植木、ベンチを置いている。玄関口ビエは季節の花や飾り付けをしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食器の音や、調理の匂いなど、自然に感じていただいている。居間には生花を飾ったり、季節の飾り付けなどを一緒に行い、居心地の良い空間作りに努めている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間・廊下にソファやベンチを設置し、自由に過ごしていただいている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や小物を持ち込んでもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は常に換気し、トイレには消臭剤を使用し常時、換気扇をつけている。居間の換気も心掛けているが、高齢の方がいらっしゃるため、常には難しく、体調・天候にあわせて行っている。温度調節にも気を配っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った椅子、テーブルの高さにしている。足台の使用や、浴室・脱衣場に必要の手すり・バーを設置している。		さらに自立を目指して工夫していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱・不安要素を把握し、状況に合わせて環境整備に努めている。何か生じた時は、その都度スタッフ間で話し合い、工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を確保し、日常的に作業や、収穫を楽しめる環境を作っている。		